慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	戦略的組織風土と経営戦略の変革
Sub Title	
Author	鈴木勝美(Suzuki, Katsumi) 関口操
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0088

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0088

学生氏名　鈴木勝美

主査　関口　操　教授

副査　古川公成　助教授

奥村昭博　助教授

和田充夫　助教授

所属ゼミナール　和田充夫研

戦略組織風土と経営戦略の変革

経営の後進性を打破し、事業の成果を果たすためには、経営者は、経営戦略変革の前提として、組織の戦略風土を把握し、変革することを必要としている。そこで、本論文は、組織の戦略風土を把握し、組織メンバーの戦略風土に対する満足度を理論的に解明するために、H.I,アンゾフの戦略風土モデルを前提として、バランス満足理論による枠組を用いた調査研究を行なった。

そして、株式会社東京堂の営業部員56名をサンプルとして、質問票による調査を行ない、その結果はおおむね本研究の仮説を支持した。すなわち、同社の組識メンバーの戦略意識は基本的に低いが、将来の戦略風土に対する期待水準は高く、しかも、その期待水準を上回る組識の戦略適応能力を認知していることから満足度は高くなっている。以上の結果は、戦略風土変革を行なおうとする経営者はメンバーを動機づけ、期待水準を引きあげるのみならず、組織の戦略変革適応能力が高いことを、メンバーにイメージづけることの必要性、ならびに、段階的変革目標による達成度の確認により、メンバーに対しても戦略風土変革を、長期的パースペクティーブの中に位置づけさせることの必要性を示唆しているといえよう。